

## 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算      支出科目    款：農林水産業費    項：農業費    目：農業振興費

### 事業名    農林系アカデミー・農業大学校連携推進事業

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部農政課政策調整係    電話番号：058-272-1111 (内 2816 )

E-mail： c11411@pref.gifu.lg.jp

1    事業費            6, 8 3 3 千円 (前年度予算額：8, 0 0 0 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,000	2,716	0	0	0	0	0	0	5,284
要求額	6,833	2,263	0	0	0	0	0	0	4,570
決定額	6,833	2,263	0	0	0	0	0	0	4,570

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

近年の国際的市場開放の動きや超高齢化少子化など農林業が直面する課題は大きいため、平成30年度に、有識者や専門家による「県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上検討会」を設置し、各学校の課題を洗い出し意見を聴取した。

3校の課題に対し、検討委員の意見を参考に取組み案を整理し、各学校が個別に取り組むよりも、3校が協力して取り組むほうがより効果的と思われる課題に対して、3校が連携して課題解決を図る。

### (2) 事業内容

各学校が持つ共通した課題を①学校の魅力発信 (入口対策) ②社会の変化に対応した学校づくり (教育内容の充実) ③就職・就農支援の強化 (出口対策) の3つの課題に整理し、検討会で出た意見を参考に3校が連携して課題解決に取り組む。

(3) 県負担・補助率の考え方

県立の学校であり、県負担が妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	384	情報交換会等の講師等
旅費	538	講師の費用弁償、職員の旅費
使用料	100	研修会場等借上料
会議費	5	企業との打ち合わせ
燃料費	30	公用車燃料費
印刷製本費	150	チラシ印刷費
委託費	4,526	見学ツアー等委託費
役務費	920	フリーペーパー掲載費
消耗品費	180	
合計	6,833	

**決定額の考え方**

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ ぎふ農業・農村基本計画  
第5章1 多様な担い手づくり  
(7) 農業大学校・国際園芸アカデミーの人材育成機能の強化
- ・ 第3期岐阜県森林づくり基本計画  
第7章3 人づくり及び仕組みづくりの推進  
(4) 技術者及び担い手の育成・確保

(2) 事業主体及びその妥当性

- ・ 県立の学校であり、県が事業主体であることが妥当

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・各学校の共通課題を洗い出し、学校の魅力発信、社会の変化に対応した学校づくり、就職・就農支援の強化に取り組み、入口対策から出口対策までを3校連携で取り組むことにより、地域から求められる人材の育成を行う。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
ぎふ農業農村基本計画（担い手育成数）	899 (H29)	899 (H29)	(H )	1,918 (R1)	2,000 (R2)	95%
第3期岐阜県森林づくり基本計画（森林技術者数）	932 (H29)	932 (H29)	(H )	936 (R1)	1,255 (R3)	75%

### ○指標を設定することができない場合の理由

--

### （前年度の取組）

・コロナ禍において実施可能な施策として、フリーペーパーによる学校間相互掲載のほか、共同授業の3校での配信など、学校の認知度を上げる取組みを連携して実施した。

### （前年度の成果）

・広報チラシを配布することにより、若年層への職業の選択肢としての農林業をPRすることができた。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い</li> </ul>	
(評価) ○	近年の国際的市場開放の動きや超少子高齢化など農林業が直面する課題は大きい中で、県立農林系の学校3校が共通の課題を認識し、いち早く課題解決に取り組むことは重要である。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価) —	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価) ○	3校が連携して取り組むことで経費削減を図ることができることに加え、3校が連携して取り組むことで互いに刺激を受けることができ、相乗効果を生み出すことができる。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の国際的市場開放の動きや超高齢化少子化などは農林系県立学校の教育環境や運営にも大きな影響を及ぼしており、社会情勢の変化に対応した学校の魅力づくりが必要である。</li> </ul>
--

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校が直面する課題を解決しつつ、地域が求める人材の育成をより強化するためにも、3校が連携して学校の魅力づくりを進める。</li> </ul>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	